

# 寺とも落語会



去る10月4日(日)午後2時～徳成寺において寺とも落語会が開かれました。3月以来、中止になっていた寺ともサービスデーの再開です。と言っても、新型コロナを常に念頭に置かないといけないので、これまで通りの催しというわけにはいきませんが、感染予防に注意を払いながら、精一杯執り行って参りますので、倍旧のご厚情をよろしくお願い致します。トップバッターは、おなじみの三木高校お笑い同好会の富貴亭金飲(ふきていきんかん)君の「動物園」でした。お笑い同好会の火を絶やさず頑張りました。

次は、どんぐり亭ぽりすさんです。ぽりすさんには、2017年の10月号に「今月の寺ともさん」として掲載させて頂き、この度は立川志の輔師匠の創作落語「バールのようなもの」を演じて下さいました。香川県警にお勤めされているとあり、仕事柄よく耳にするこの「バールのようなもの」を見事に演じ切りました。落語の中に出てくる「捜査のメス」など面白い日本語が日常よく使われていることにあらためて感心しました。



玉や順加(たまやよりか)さんは、ご覧のようにお三味線で、都々逸(どどいつ)を披露して頂きました。なんともお三味線の音色が、私たちの琴線に触れて心地よかったです。「七・七・七 七・五」で詠まれる都々逸ですが、様々なバージョンがあり、それも披露して下さいました。「信州信濃のそばよりも あなたのそばがよい」なんて詠まれると、粹な心がより一層伝わります。最後にソーラン節をみんなで合いの手を入れながら気持ちよく歌い上げました。

ト리는、おなじみ香川アマチュア落語のリーダー酔亭藪太郎さんです。新型コロナの影響で、ここ数か月前で落語を演じる機会がなく、インターネット配信のためビデオカメラに向かって演じておられたので、この日は久々に人前で演じる緊張感があったとか。「菊江仏壇」というプロでもあまり取り上げないという珍しいネタでした。右の写真は、飽き症の若旦那が、厳格な父親がない間に自宅でどんちゃん騒ぎを繰り広げている様子です。まあたいそうご機嫌です。落語の世界に浸った一日でした。

